

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ  
川崎市外国人市民代表者会議

だい 11 期 だい 2 年 だい 3 回 だい 2 日  
(第 11 期 第 2 年 第 3 回 第 2 日)

ぎじろく  
議事録

1 日時 2017 (平成 29) 年 12 月 10 日 (日) 午後 2 時～5 時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 16 人

葉 元聡、金 スンオグ、タカハシ ライゼール ラモス、レ ベト ギア  
カン、幕内 嘉雯、河本 フアビオ良則、ヘイ ジャファイ、スタント イルワン、  
河 相宇、バルトコバ オクサナ、ホサニ アハマド ユースフ、牟 鳳菊、  
韓 簫、ケゼングア エドワード ムウインビ、蔣 香梅、サリ アビシエク

(2) 事務局

小川 担当課長、須藤 課長補佐、岩切 係長、丸橋 職員、高橋 専門  
調査員

4 傍聴者 4 人

5 会議次第 (公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ヘイ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議 2017 年度、第 3 回  
第 2 日を開催する。本日は、ダニエラさん、ゲーシーさん、ヴィラマーさん、  
アスカさんから欠席の連絡があった。それでは、まずは本日の日程と配布資料  
の確認について、事務局から説明をお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が説明。)

ヘイ委員長「次に、前回会議のまとめについて、事務局から説明をお願いする。」  
(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

ヘイ委員長「何か質問などはあるか。(なし)では、議事に入る。まずはオープン会議の振り返りについてだ。事務局から説明をお願いする。」  
(事務局高橋専門調査員が資料2、2-1に基づき説明。)

ヘイ委員長「まずは事前の準備や計画について、次に当日の運営やプログラムについて、最後に全体の感想についてということで進めたい。何かあるか。」

葉委員「事前準備というより、当日の分科会での説明の仕方についてだが。たしかに議論したいテーマの説明はしたが、十分に伝わっていなかったように思う。というのも、提言の趣旨とは違う質問や意見が多く出た。」

金部会長「私は分科会で司会をしたが、もう少し代表者が母語で発言を呼びかけたりするとよかったかもしれないと思った。」

ヘイ委員長「日本語があまりできない人が話しづらい雰囲気があったのか。」

金部会長「発言した人はみんな日本語だったが、黙っている人もいた。」

ケゼングア副委員長「今回は、代表者と参加者が向き合うかたちで座ったが、ラウンドテーブル形式の方が話しやすかったかもしれない。」

ホサニ委員「ある程度質問を受けてからまとめて答えるという方法で進めたが、答えがないと次の質問が出てこないという部分もあった。もう少し柔軟に対応できるとよかった。」

ヘイ委員長「ほかに何かあるか。(なし)全体の感想についてはどうか。私としては、思った以上に参加者が多く。いろいろな方から意見を聴いたのでよかったとおもっている。」

葉委員「全体を通して、日本語能力が不十分な人への配慮が足りなかったように思う。私たちの話す日本語はかなり速かったと思う。」

ヘイ委員長「ほかに何かあるか。(なし)では、全体での振り返りはここまでとする。オープン会議で出た意見については、このあとの部会で審議して欲しい。」

## 【情報・社会教育部会】

ヘイ委員長「それでは、情報・社会教育部会を始める。まずは資料説明を事務局からお願ひする。」

(事務局丸橋職員が資料3-1、3-2に基づき説明。)

ヘイ委員長「オーブン会議は欠席者も多かったが、何か質問はあるか。（なし）  
では、提言案について審議する。背景・理由の部分のオリエンテーションの  
役割や必要性について何かあるか。（なし）次に具体的なイメージにつ  
いて何かあるか。」

レベト委員「1点、気になる。時間が2時間程度で通訳も入るということだが、そ  
うすると限られた時間の中で伝えたい情報の優先順位をつけた方がよいのでは  
ないか。」

サリ委員「話す内容が決まっていれば、最初だけ通訳をして、あとは外国語で説明す  
ればよいのではないか。それと、ウエルカムセットに入っていない資料の  
多言語版はあるのか。」

事務局丸橋職員「税金や年金についてはあったと思う。」

スタント委員「優先順位は参加者によって変わってくるかもしれない。優先順位はつ  
けられないのではないか。」

牟委員「個人的には生活に役立つ情報が一番大事だと思う。」

レベト委員「優先順位は講師に任せればよいのではないか。」

ヘイ委員長「民間の企業や大学との連携についてはどうか。それと、事前登録制にす  
ると参加のハードルが上がってしまうのではないかという意見もあったと思  
うが。」

スタント委員「事前に申込みが必要だと参加者は減ってしまうと思う。」

ヘイ委員長「2時間という時間についてはどうか。」

スタント委員「実際にやってみないとわからない部分が多い。」

レベト委員「時間ではないが、曜日については提言に書くか。というのも、学生や  
仕事をしていれば平日には参加できない可能性が高い。」

ヘイ委員長「実際に実施してみないとわからない部分が多いので、時間や開催曜日な  
ども含めて、基本的にアンケートをとってそこからのフィードバックで改善し  
ていくということではどうか。（異議なし）では、対象についてはどうか。  
主に海外から来た人、滞在の浅い人をメインにするということではどうか。  
（異議なし）Q&Aや多言語対応については資料のように変更ということ  
ではどうか。（異議なし）」

レベト委員「実現可能かどうかはわからないが、オリエンテーションに参加できな  
い人のために動画で見られるようにして、YouTubeなどインターネット  
で公開してはどうか。」

ヘイ委員長「このオリエンテーションは、フェイス・トゥ・フェイスでやることに意味があるということを強く打ち出してきたと思うが。」

レベト委員「フェイス・トゥ・フェイスを軽視しているわけではなくて、参加できない人にも情報を提供したいという意味だ。」

サリ委員「私も賛成だ。将来的に実現できるとよい。」

ヘイ委員長「運営については、これまで話してきたように国際交流協会と連携して欲しいというようなことでよいか。（異議なし）広報に関しては、オープン会議で出たように企業との連携や町内会への周知なども入れるということによいか。（異議なし）最後に、あらためて今後のスケジュールを確認したい。次回の会議では、今日話し合っただけを確認したことを事務局に文章化してもらい、それを検討する。ただし、内容についての追加や修正はほぼなしとする。文章のチェックだ。2月の会議では、1月に出た修正箇所が反映されているのかを確認するだけだ。もし、内容的に何かをくわえるなら今回が最後になるがよいか。（異議なし）それでは、部会審議は以上とする。」

### 【地域生活部会】

金部会長「それでは、地域生活部会を始める。まずは、資料について何か質問はあるか。」

葉委員「提言には、私たちがつくった多言語資料もつけるのか。」

事務局高橋専門調査員「そのまま載せるかはわからないが、年次報告書にはサンプルとして何らかのかたちでつけると思う。」

ケゼンダ副委員長「保育の提言の2つ目の項目が点線の枠で囲まれているが、どういう意味か。」

金部会長「私から答える。これはオープン会議で出た意見をふまえて新たに追加したもので、今日の審議の中でどうするか検討したい。」

ケゼンダ副委員長「私も追加で入れた方がいいと思う。」

金部会長「今、保育の提言案の話に入ってしまったているが、ほかの人は何かあるか。（なし）では、話を戻して提言案を順番に確認したい。まずは、避難所における多文化共生からだ。（資料4-2を読み上げ）それでは、何か質問や意見はあるか。」

ケゼンダ副委員長「提言の項目として4つあげられているが、3つの方がすっきりして見える。1番と4番を一緒にしてはどうか。」

タカハシ委員「私は2番と3番を一緒にするのがよいと思う。」

事務局高橋専門調査員「3の方がすっきりして見えるというのは同意するが、4つにしたのには理由がある。提言は項目ごとに担当部署を決めて取り組むことになるので、1つの項目に複数の異なる担当部署が重ならないようにしている。4つに分けたのには意味がある。」

葉委員「背景・理由のところの4つ目と5つ目は必要か。」

金部会長「ここは私たちが提言を考える際に、きちんと市の取組や現状を調べましたということをあらわしている。そのうえで、今回の提言は災害後のことに注目した理由を述べている。」

事務局高橋専門調査員「背景・理由については、まだ何をかくのかを確認する箇条書きの段階なので、文章も完成していないし、順番を入れ替えることも可能だ。」

葉委員「順番を少し変えた方がいいかもしれない。」

タカハシ委員「項目の3つ目だが、『CLAIRが作成したツールが有効に活用されるよう』としてしまうとCLAIRのための提言のように見える。外国人市民や市にとっての有効性やメリットを理由にした方がよいと思う。」

事務局高橋専門調査員「すぐに文章が思いつかないが、言いたいことはわかったので次回までに文章を考えてみたい。」

タカハシ委員「そうすると、CLAIRのツールに限定しなくてもよいかもしれない。」

河本委員「表現を曖昧にして多言語ツールとしてしまうと、提言を受けた方が困るのではないか。私たちは具体的にCLAIRのツールをイメージしているので、明確に書いた方がよいと思う。」

事務局高橋専門調査員「CLAIRのツール以外に何か具体的なツールはあるのか。」

( とくになし )

金部会長「ひとまず、ここまでとして次に保育の提言に移りたい。(資料4-3を読み上げ)では、何か質問や意見はあるか。」

韓委員「想定のとこで、資料をインターネット上には公開しないとしているのはなぜか。」

事務局高橋専門調査員「みなさんのこれまでの審議の中で、窓口へ行くことの重要性和みなさんがつくる資料だけで申請ができるようになるわけではないということが強調されていたからだ。インターネット上で誰でも入手できるようになってしまうと、窓口へ行かなくてもよいと誤解する人が出てきてしまう。」

ホサニ委員「項目の2つ目の説明の機会だが、保育園ごとに説明が違ってくるのではないか。」

事務局高橋専門調査員「この説明の機会というのは、それぞれの保育園でやっている説明会や見学ではなく、保育の申請のための相談の機会だ。」

金部会長「まだ発言していない人は何かあるか。」

河委員「提言とは直接関係ないかもしれないが、小学校や中学校の入学案内では多言語の情報がきちんと届く。今回の保育園に関して、そうしたガイドがないのはやはり義務教育ではないからなのかなと感じる。」

蔣委員「やはり保育については窓口に行かないと無理だと思うので、そこは大事なポイントだ。」

金部会長「最後に確認をしておきたい。避難所における多文化共生の提言の項目は事務局から説明があったとおり4つということでよいか。賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）保育の提言は項目の2つ目を追加するというだけでよいか。賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）それでは、これで地域生活部会を終わりにする。」

## 【全体会】

ケゼングア副委員長「それでは、全体会を再開する。ここからは私が進行を代わる。まずは部会報告を情報・社会教育部会からお願いします。」

ヘイ委員長「提言のタイトルと項目については、資料のとおりだ。今日はオリエンテーションのイメージを具体化にすることに時間を使った。とくに重要なポイントとしては、今までは広く川崎市に転入してきた人を対象として想定していたが、オープン会議をふまえて、主に海外から来た滞在の浅い人を対象とすることにした。ただし、それ以外の人を対象から外すわけではない。それに伴って、これまで使用言語をやさしい日本語としていたのを、外国語での開催に変更した。どこまでできるかはわからないが、できる限り外国語で開催して欲しいという要望だ。それと、参加できない人のために映像の活用も将来的に検討したらよいのではないかという意見が出た。開催日時に関しては、学校や仕事のある人にも配慮して欲しいということになった。オープン会議で出た民間企業や大学との連携についても、できるとよいということになった。」

ケゼングア副委員長「何か質問や意見はあるか。（なし）事務局からは何か気に

なることはあるか。」

事務局高橋専門調査員「参加できない人のための映像の活用という話は新しく出てきた。このテーマでは、オリエンテーションに参加するということを前提に考えてきたと思うが、参加しなくても映像で見れるとなってしまうと前提が変わってしまうのではないか。」

レベト委員「フェイス・トゥ・フェイスでのオリエンテーションがとても意味があるということは変わらない。ただ、通勤や通学で参加できない人が出てくるとよくないので、そういった人たちのためにたとえばYouTubeなどで配信するとよいのではないかという意見だ。」

事務局高橋専門調査員「意見が出てきた背景についてはわかったが、それならば開催日時を工夫して欲しいということで対応すべきではないか。最初から参加が難しい場合はYouTubeで見ることができますとしてしまうと参加者が減ってしまうと思う。このオリエンテーションの大きなポイントは、フェイス・トゥ・フェイスでの丁寧な説明と質疑応答ができるという部分にあったはずだ。他の代表者も同じ意見か。」

ホサニ委員「私も映像だと一方的に説明を聞くだけで、質問ができなくなるのはよくないと思う。」

スタント委員「私もオリエンテーションの参加率が下がってしまうのではないかと思う。運転免許の更新の時のように、オリエンテーションの中で映像を使うことには賛成だ。」

ケゼンダ副委員長「時間が超過しているが、この件はどうするか。」

事務局高橋専門調査員「今、話を聞いていてもしっかりと審議して合意が得られているように感じない。引き続き検討ということにしてはどうか。」

ヘイ委員長「では、ひとまず保留ということにしたいがそれでよいか。（異議なし）」

ケゼンダ副委員長「続いて、地域生活部会からの報告をお願いします。」

金部会長「まず、避難所における多文化共生についてだが、項目数について検討したが4つのままということになった。細かい意見はいろいろと出たが省略する。保育の申請については、オープン会議で出した意見をふまえて、日本語が苦手な外国人市民のために多言語に対応した相談の機会を設けるということ新たに項目に追加することにした。主なものは以上だ。」

ケゼンダ副委員長「何か質問や意見はあるか。（なし）事務局からは何か気に

なることはあるか。（ なし ）」

ヘイ委員長「では、今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いする。」

【事務連絡】

- ・議事録の確認について
- ・年次報告書の作成について
- ・アンケートの提出について
- ・次回の会議資料の発送について

ヘイ委員長「何か質問はあるか。（ なし ）次回の会議は1月21日の日曜日、場所はここ国際交流センターで開催する。それでは、これで2017年度第3回第2日の会議を終わりにする。お疲れさまでした。」